

平成30年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策)
事業実施主体 評価一覧

10件

| 農政局等 | 都道府県 | 市町村 | 事業実施主体名 | 事業実施段階 | | | | 評価 | 評価コメント |
|------|------|------|----------------|--------|--------|----|----|----|---|
| | | | | H29 | H30 | R元 | R2 | | |
| 沖縄 | 沖縄 | 名護市 | 名護市農泊推進協議会 | ● | ● ■ | | | A | 多様な観光客の受入れのため、沖縄本島北部（やんばる地域）の魅力ある資源を活用した体験プログラム（観光メニュー）の充実、人材育成に取り組み、売上げ、宿泊者数とも目標を達成した。 農村ウエディングの商品化等、昨年開発した、コーヒー収穫体験等の体験プログラムの磨き上げ以外の新たな取組も行っており、今後の活動に期待できる。 |
| 沖縄 | 沖縄 | 糸満市 | 糸満市観光まちづくり協議会 | ● | ● ■ | | | A | 農泊の糸満ブランド確立のため、「大人の農泊・インバウンド向け農泊」や地元野菜ソムリエと連携した「農」と「食」の活動に取り組んだが、売上げ、宿泊者数とも目標達成とはなっていない。 しかしながら、OCVBと連携した海外商談会への参加、インバウンド（中国、シンガポール）を対象にしたサマースクールの受入れ等積極的な取組を行っている。その成果もあり、インバウンド受入数は増加しており、今後の活動に期待ができる。 |
| 沖縄 | 沖縄 | 宮古島市 | 伊良部島食と暮らし事業協議会 | ● | ● ■ | | | A | 伊良部大橋の開通による観光客増加に対応するため、地域ぐるみの受入体制を構築し、「加工品づくり」など地元食材を活用した体験プログラムやメニュー開発に取り組んだ。 家庭料理大集合については地元2紙へ掲載されるなど、注目度の高い取組となった。これらの取組の成果により、売上目標は達成、宿泊者数目標についてもおおむね達成となっている。 なお、漁業の町ならではの、水産資源を活用したメニュー開発にも取り組んでおり、今後の更なる活動が期待される。 |
| 沖縄 | 沖縄 | 宮古島市 | ともし・うるか地域協議会 | ● | ● ■ | | | A | 農泊を持続的に実施するために、教育旅行だけではなく大人の観光客の受入拡大を目指し、地域資源を活用した体験プログラム開発や食に注目した講習会を実施した。その成果により、売上げ、宿泊者数の目標ともおおむね達成となった。 なお、琉球大学と連携し、持続的な農泊に資するための「大人の農泊」に係る調査や体験メニューの提案（開発）についてとりまとめるなど、将来の環境変化への対応をすすめており、大きな期待が持てる。 |

| | | | | | | | | |
|----|----|------|-------------------|---|--------|--------|---|--|
| 沖縄 | 沖縄 | 東村 | NPO法人東村観光推進協議会 | ● | ● ■ | | A | <p>東村での農泊の教育的価値をPRするために、旅行会社や学校側へのプロモーション活動、教育旅行パンフレットの作成を行った。教育旅行だけではなく大人の農泊も視野に入れ、インバウンド向け商談会への参加、英語パンフレット作成等の取組も行ったこともあり、売上げ、宿泊者数とも目標を達成している。</p> <p>また、当該地域での農泊は、ホテル等通常の宿泊では体験できない、素朴でこころの通うおもてなし、特産品のパインアップルを活かした食事メニューなど地域の良さを活用しており、今後の活動に期待ができる。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 今帰仁村 | 今帰仁村インバウンド農泊推進協議会 | ● | ● ■ | | A | <p>廃校を活用した農家レストラン、宿泊施設等を中心に、今帰仁村、農産物加工事業者、直売所事業者も含め地域ぐるみで農泊に取り組み、WEBマガジン開発、ビジネスモデル開発セミナー等を実施した。その成果として、売上げ、宿泊者数とも目標を達成している。</p> <p>農泊の取組の継続のためにも実施体制について課題は残るが、今後も、農泊の先進地区としての活動に期待する。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 伊是名村 | NPO法人島の風 | ● | ● ■ | | A | <p>村役場、観光協会等と連携し地域ぐるみでの取組を行い、平成30年度には、いぜな島農泊推進協議会を設置し取組体制の更なる強化を図っている。</p> <p>週末インターンや試住プログラム等の古民家を活用した取組により、売上げ、宿泊者数とも目標をおおむね達成している。</p> <p>目標を達成できたのも古民家を活用した地道な取組、史跡等の歴史的な資源を活用したもので、今後の活動に期待する。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 竹富町 | 黒島田舎体験プロジェクト実行委員会 | ● | ● ■ | | B | <p>黒島の持つ魅力、自然、文化財、ゆったり流れる時間を活用した、体験プログラム開発やHP作成等の情報発信の取組を行った。</p> <p>その成果により、売上げは目標を達成できていないが、宿泊者数は目標をおおむね達成している。</p> <p>農泊の取組を持続的・発展的に行うためには実施体制に課題は残るが、(株)ルート黒島を設立しており、今後の活動に期待できる。</p> |
| 沖縄 | 沖縄 | 大宜味村 | おおぎみツーリズム地域協議会 | | ● | ○ □ | A | <p>芭蕉布（伝統工芸）、シークワサー等の地域資源を最大限に活用した取組やインバウンド受入れに向けた取組を実施し、売上げ、宿泊者数については目標をおおむね達成している。</p> <p>健康長寿をコンセプトに、地元の辺土名高校と連携し、地元食材を活用したメニュー開発、レシピ集を作成するなど農泊の実践に積極的に取り組んでおり、次年度にも期待できる。</p> |

| | | | | | | | | | |
|----|----|-----|--------------|--|---|--------|---|---|---|
| 沖縄 | 沖縄 | 伊江村 | 伊江村観光振興推進協議会 | | ● | ○ □ | / | A | <p>教育旅行に取り組んだノウハウを活用し、一般観光客向け受入体制構築やプログラム開発等の取組を実施し、売上げ、宿泊者数は目標を達成してる。</p> <p>インバウンドを含んだ一般観光客向けのハウスルール・ガイドライン作成やモニターツアーの実施等、農泊の実践に積極的に取り組んでおり、次年度にも期待できる。</p> |
|----|----|-----|--------------|--|---|--------|---|---|---|

(注1)「事業実施段階」の凡例：ソフト対策 ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・交付対象年度(計画) ★・・交付対象年度(実施済) ◇・・目標年度(計画) ◆・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A・・優良 B・・良好 C・・低調

【平成30年度農山漁村振興交付金(農泊推進対策)の評価概要】

今回の評価では、平成29年度採択の8地区と平成30年採択の2地区の合計10地区の評価を行った。

10地区のうち9地区は総合評価がA評価、残る1地区も総合評価はB評価であり、重点指導となる総合評価がC評価の地区はなく、管内の取組としては適切に事業が実施され着実に成果が現れていると言える。

B評価の地区である黒島田舎体験プロジェクト実行委員会においても、事業実績のうち宿泊者数は90%の達成率で、取組は一定以上の評価がされるものであり、実施体制の面では事務局の人材育成に課題が残っているが、(株)ルート黒島を設立しており、今後の取組に期待ができる。

【令和元年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 令和元年7月24日（水）10時00分～12時00分

2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室

3. 出席者

・評価委員会委員 3名 (五十音順)
有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄社長
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦 (委員長) 琉球大学農学部准教授

・評価委員会事務局 沖縄総合事務局 3名

4. 議事概要

1) 農山漁村振興交付金の評価について

農泊推進対策（農泊推進事業・人材活用事業）の各実施団体の評価内容（案）について、委員からの意見聴取を行った。

2) 農山漁村振興交付金の評価結果（案）の取りまとめ

上記1)の結果を踏まえ、農泊推進対策（農泊推進事業・人材活用事業）について、公表用評価コメントを様式に取りまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

① 名護市農泊推進協議会

地域資源の掘り起こしや活用を実施し、農村ウェディングの商品化等新たな取組も行っており、今後の活動にも期待ができる。

② 糸満市観光まちづくり協議会

ブランド農泊の確立のため、「大人の農泊・インバウンド向け農泊」の多様な体験プログラムの構築に取り組み、インバウンド受入れについても積極的な取組を行っており、今後の活動に期待ができる。

③ 伊良部島食と暮らし事業協議会

増加している観光客への対応のため、地元食材を活用した体験メニュー開発に取り組んだ。漁業の町ならではのメニューもあり、今後の活動に期待ができる。

④ ともし・うるか地域協議会

持続的な農泊の実施のため、大人の民泊受入れのためのプログラム開発や、琉球大学と連携した調査に取り組むなど、将来に向けて大きな期待が持てる。

⑤ NPO法人東村観光推進協議会

教育旅行だけではなく、インバウンドも含めた大人の農泊を視野に入れた取組を行うなど、今後の活動に期待できる取組を行った。

⑥ 今帰仁村インバウンド農泊推進協議会

WEBマガジン開発、ビジネスモデル開発セミナー等農泊のビジネス化に向けた取組を行った。取組の継続のための実施体制の課題は残るが、農泊の先進地区として今後の活動に期待する。

⑦ NPO法人島の風

古民家を活用した島暮らし体験や試住プログラムなどの取組が着実に進められ、今後も引き続き活動に期待ができる。

⑧ 黒島田舎体験プロジェクト実行委員会

新たな観光コンテンツの確立への取組を行った。取組の持続性の面から実施体制に課題は残るが、株式会社を設立しており、今後の活動に期待する。

⑨ おおぎみツーリズム地域協議会

地域資源を最大限に活用した取組と、健康長寿をコンセプトに地元高校と連携をした取組を行った。目標も達成しており、次年度の取組にも期待ができる。

⑩ 伊江村観光振興推進協議会

教育旅行のノウハウを活用し、インバウンドを含めた大人の農泊への対応のための取組を行った。目標も達成しており、今後の活動に期待する。